

厚木市観光振興計画改定の概要

1 計画改定の背景【本編P1】

「厚木市観光振興計画」は、平成 24 年 3 月に策定し、4年が経過しましたが、この間、観光をめぐる環境は大きく変化しています。

平成 25 年に訪日外国人旅行者が 1,000 万人を突破し、2020 年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決まるなど、観光を巡る情勢は大きく変化しています。更に訪日外国人旅行者が今年(平成 28 年)2,000 万人を突破するなど、観光先進国の実現に向けて政府一丸、官民一体となった取組が進められています。

ついで、本市の観光振興を取り巻く観光ニーズを始めとした環境変化に対応し、施策の実効性を確保するため、計画の改定作業を行います。

2 計画の目的【本編P1】

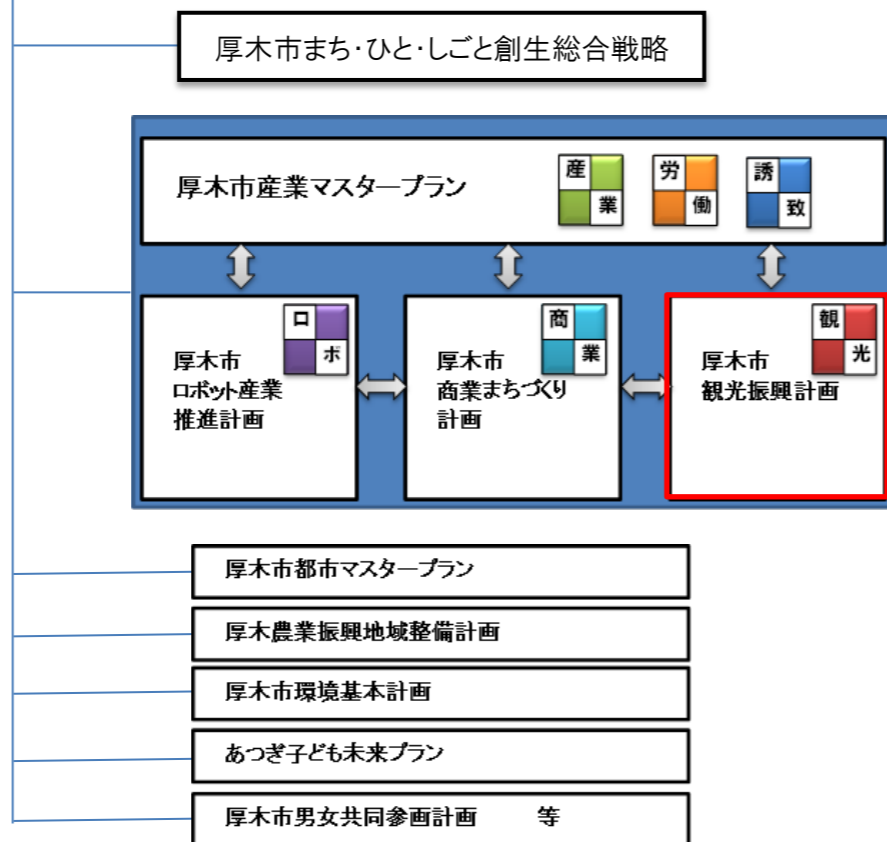
「厚木市観光振興計画」は、厚木市観光振興条例に基づき、本市を取り巻く環境変化や観光ニーズを的確に捉え、実効性の高い観光振興施策を推進することを目的とします。

3 計画の位置付け【本編P2】

第 9 次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」

「厚木市観光振興計画」は、第 9 次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」における「快適政策にぎわいあふれる、快適で利便性の高いまちづくり」の推進を基本として策定します。

また、市が策定した次の関連する計画等と連携した計画とします。



4 計画期間【本編P3】

計画期間は、「あつぎ元気プラン」との整合性を図り、平成 29 年度から 32 年度までの 4 年間とします。

	H28	H29	H30	H31	H32
あつぎ元気プラン	→				
厚木市観光振興計画	→				

5 厚木市観光振興計画の実施状況【本編P3】

本市では、現行計画の 3 つの戦略と 7 つの柱を踏まえ、観光事業者、観光関連団体、企業や商店街等と連携して、計画に位置付けた具体的施策に基づき、地域の魅力の情報発信、観光への市民参加の促進、広域観光拠点としての可能性の追求などに取り組み、その結果、観光客数の増加や観光客消費額が増額するなど、一定の成果を上げてまいりました。

平成 27 年の成果(実績)数値と目標数値を比較すると、観光客数・宿泊者数は、ほぼ目標を達成しており、観光客消費額は目標値を上回っております。

【目標値】

指標名	平成 24 年(実績)	平成 27 年	平成 32 年
観光客数	3, 247, 751人	3, 420, 000人	4, 500, 000人
宿泊客数	340, 181人	343, 700人	352, 000人
観光客消費額	122億円	140億円	170億円

【成果数値】

指標名	平成 24 年(実績)	平成 27 年	達成率
観光客数	3, 247, 751人	3, 387, 190人	99. 0%
宿泊客数	340, 181人	341, 733人	99. 1%
観光客消費額	122億円	約156億円	111. 4%

本市の観光を取り巻く現状と課題

6 本市の観光を取り巻く現状【本編P10～38】

- 観光を取り巻く社会経済環境の変化
平成 25 年に訪日外国人旅行者が 1,000 万人を突破し、2020 年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決まるなど、観光を巡る情勢は大きく変化しています。更に訪日外国人旅行者が今年（平成 28 年）2,000 万人を突破するなど、観光先進国の実現に向けて政府一丸、官民一体となった取組が進められています。
- 国・県・市の観光政策の動向
【国】明日の日本を支える観光ビジョン
3つの視点と10の改革を掲げ、『世界が訪れたい日本』を目指した取組を実施しています。
【県】神奈川県観光振興計画
「行ってみたい、住んでみたい、人を惹きつける魅力あふれる神奈川」を将来像とし、観光振興に取り組んでいます。
【本市】第9次厚木市総合計画あつぎ元気プラン／厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略等において、観光のまち実現に取り組んでいます。
- 本市の観光の現状及び動向
【観光資源】
大山などからなる丹沢山塊、その山裾の温泉、相模川など恵まれた自然資源／ハイキング、森林セラピーなどヘルスツーリズム／農業体験、観光農園などグリーンツーリズム／まつり・イベント、食など
【入込観光客数等】
○入込観光客数は 300 万人台前半で推移。うち日帰り客が9割、宿泊客は1割。月別では8月が約3割。
○あつぎ鮎まつりが約 70 万人、次いで相模川 52.6 万人、飯山 45.4 万人、七沢 41.1 万人
○直近5年間では、かながわグルメフェスタが約3倍の入込客数
○観光消費額はアップして 150 億円台で推移。うち飲食費が5割近い

7 調査に見る本市の現状【本編P39～45】

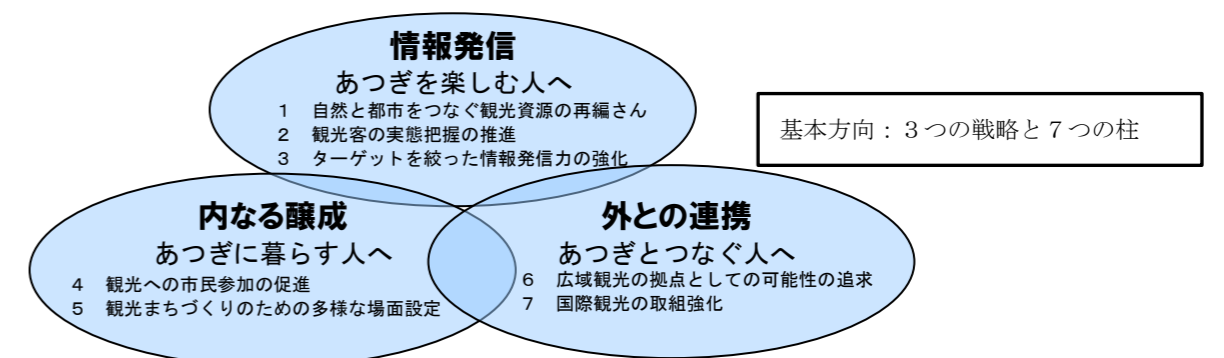
既実施の〈市民意識調査〉・〈市民満足度調査〉のほか、〈Web アンケート調査〉・〈外国人観光モニター調査〉・〈関係団体ヒアリング調査〉を実施。相対的に、本市の認知度は高いものの、観光資源に関心を寄せる人が少ない。

8 本市の観光に関する課題【本編P46～53】

- 自然体験の機会や場づくり／高まる自然学習や自然体験ニーズへの対応
- 厚木を楽しむ仕掛けづくり／テーマ設定による地域資源のシナリオ化、回遊性
- 訪れやすく滞在を楽しめる環境整備／気持ちよく、多くの人々が訪れやすく滞在を楽しめる環境整備
- 厚木を楽しんでもらう観光情報の発信／情報発信への積極的な取り組み
- 観光まちづくりへの観光戦略／観光プロモーションを総合的に行う組織の検討
- 広域観光の拠点／他の市町と連携した広域観光の推進
- 外国人観光客への対応／Wi-Fi 導入やサイン設置など受入環境の整備
- 地域の観光産業を担う人材の確保と育成／サービス向上等を目指した観光人材の育成

9 計画改定の基本方針と目標値【本編P54～55】

- 改定の基本方針
本市の観光を取り巻く環境変化に対応した計画の実効性を確保するため、5つの重点的視点に沿って、具体的施策を展開します。
 - (1) 鮎や河川を通じた観光振興
 - (2) 効果的な情報発信の推進
 - (3) (一社)厚木市観光協会の事業拡充
 - (4) 広域連携による観光推進
 - (5) 外国人観光客受入体制の強化
- 観光振興の基本目標とキャッチフレーズ
ア 基本目標:「自然」と「都会」をつなぐ都市(まち)
イ キャッチフレーズ:行こう、遊ぼう ― 山と川のある都市(まち)あつぎ



3 達成すべき計画の目標値

指標名	現状値 (平成 27 年)	目標値 (平成 32 年)
観光客数	3, 387, 190人	4, 500, 000人
宿泊客数	341, 733人	352, 000人
観光客消費額	約156億円	約170億円

厚木市観光振興計画体系(案)

3つの戦略

7つの柱

施策の方向

具体的施策

※「*」印は新規施策、網掛けは重点施策
網掛けの色は5つの重点的視点の色と対応しています。

